

第3回ももん文学賞

長月雨音さん(高知市)に

悲しみと「宿命の人」を描く

高知市の出版社「南の風社」が主催する「第三回ももん文学賞」に、長月雨音(あまね)さん(三三)ペンネーム、高知市一宮の小説「カルナ」が決まり、このほど単行本として同社から刊行された。

(竹内 一)

単行本を刊行



同賞は平成十七年に創設。さまざまなことで「悶々(もんもん)」と悩んでいる人たちが、その感情をエネルギーにして、社会に強く訴える斬新な文学作品に結実することはできないかーとの思いから生まれた。

「人と人とのつながりをテーマにした小説を書いていきたい」と話す長月さん(高知新聞社)

第一回受賞作は、俳優で脚本家の武井岳史さん「吾川郡春野町の小説『二十歳の俺へ』」で、昨年は該当作なし。今年は



単行本として刊行された長月さんの受賞作

九編が寄せられ、長月さんの小説が受賞した。長月さんの小説は、あまねの医大生を中心とした青春恋愛小説。県内各地が舞台となっており、会話の多くに土佐弁が使われている。中国人女性との失恋で死を決意している主人公。一緒に暮らす認知症の元医師やサッカー部の友人たちも、心にそれぞれ深い悲しみを抱える一方、「宿命の人」の存在があるーというストーリー。

「この作品が、いま悶々と悩んでいる人たちを励ますメッセージになればうれしい。長月さんの小説は、そのストーリー展開の巧みさなど、作家自身の才能にも大きな可能性を感じています」と期待を込める。

長月さんは「失恋という悲しみを人はどう乗り越えていくか、登場人物たちがどう悲しみと向き合ってきたかを描いています。僕自身も夜眠れず悶々としていた時期があって、小説を書くという事で癒やされてきたように思います」と話している。

県内の主要書店で発売中。千五百七十五円。「第四回ももん文学賞」の募集も始まっている。